

青森県主催・株式会社Ridilover提供：  
青森の地域課題を紐解く  
構造化ワークショップ

ご案内資料

株式会社Ridilover



2024年9月5日

## リディラバが提供する、『本質的な課題』を掴み取る「理解の質」

スタートアップが青森地域の地域課題をビジネスを通じて解決していくうえで大切なこと——それは、スタートアップが『**取り組むべき本質的な課題を外さないこと**』にあると、リディラバは考えています。

本プログラムでは、15年間社会課題と向き合ってきたリディラバが持つ『**構造化**』の手法を用いて、社会課題を構成する**複雑な要因の俯瞰的な紐解き**と、**青森県として取り組むべき地域の『本質的な課題の特定』**を徹底的にサポートします。

プログラムを通じて、様々な要素が複雑に絡み合う地域課題をより解像度を高く捉えられるようになることで、支援機関自身がその支援能力を高め、事業を通じた青森の地域課題の解決が一層加速することを目指します。

- 地域課題からビジネスにする方法がわからない
- 事業者への適切な支援方法がわからない



### マクロ

デスクリサーチ/トップランナー  
ヒアリング⇒仮説構築  
(n=1,000,000...)



取り組む課題に関する  
先行研究・データは？

その課題の背景にある  
構造的な要因は？

課題解決の仮説は？

現時点の仮説を  
実際の現場で検証

### ミクロ

対話・現場視察⇒検証  
(n=1)



仮説の実現可能性・  
効果性は？

当事者や関係者の  
リアルな想い・本音は？

デスクリサーチだけでは  
掴めない情報とは？

現場知を持ち帰り、  
仮説をブラッシュアップ



- 取り組むべき課題を  
解像度高く特定
- 支援者として事業化を見据  
えた芯をとらえたサポート

## 本プログラムの実施概要

### ・ 本プログラムの実施概要:

青森県の地域課題の事業化を目指し、事業創出支援スキル向上のためのワークショップを全4回で実施します。ワークショップ終了後には、課題に対してどのような事業アイデアを検討したかの、**事業策を発表する最終発表会**を設けます。発表会では、ワークショップ参加者だけでなく、地域内外から人を集め、ワークショップを通じて検討した事業案について、実現性をより高めるために議論を行います。

### ・ ワorkshop (WS) の実施概要:

WSで取り扱うテーマに関して、青森県の現状だけではなく、業界全体での動向や他地域の先行事例等から課題の全体構造を整理すべく、講義やワークを実施します。

WS2日目には、課題に関して全国でも先進的な取り組みを行っており、かつミクロ・マクロ両方の目線で課題についての解説ができる有識者(=トップランナー)を呼び、**課題及び要因の構造的**理解を深めていきます。

WS3日目には、現場視察及びヒアリングを通して、取り扱うテーマに関する青森県での課題を明らかにし、また支援者と事業者が協働できる基盤をつくるための信頼関係構築への一歩を築きます。

全日程を通して、特定の社会課題への理解を深め**社会課題を構造的に分析する方法**を体得することを目指します。

### ・ ワorkshop (WS) のゴール:

参加者が、青森県域の地域課題の理解を深めながら、プログラムで扱うテーマ以外の課題にも応用できるよう**構造的な視点と考え方を習得し、また課題解決への意思を醸成**することを目指します。

● オフライン実施

● オンライン実施



## 本プログラムでの実施イメージ

### <プログラム概要>

- 期間:延べ2.5カ月(全4回のWS+発表会) ※詳細スケジュールはp.7をご覧ください。
- 実施方法:Day1,発表会はオフライン@青森市内、Day3はオフライン@弘前市内、Day2,4はオンライン@Zoom
- 取り組むテーマ:資源循環～食品ロスから青森の課題構造を紐解く～
- 参加者:最大10名程度  
※所属機関のバランス等を考慮し、事務局による選考を行います。  
応募いただいた方全員が参加できる訳ではありませんので、ご了承ください。※
- 参加費:無料  
※WSの実施会場や第3回の現場ヒアリング会場への移動方法は参加者ご自身でご手配ください。  
また、本プログラムの参加にかかる交通費の支給はありません。



### WSを通じて体得できる3つのこと

1. 特定の地域課題への深い知識
2. 地域課題や複雑な課題を紐解く構造的視点と考え方
3. 課題の本質に迫り、事業化のインサイトを掴む分析手法

# 応募要項&参加申込方法

## 【応募要項】

- 県内支援機関、大学、市町村、銀行等においてスタートアップ支援活動を行っている方の中で、下記に該当する方!
  - 業務の一環として、スタートアップの創業や活動支援に携わる/これから携わる予定の方
  - 事業を通じて青森の地域課題解決を進めることに熱意をもって関わっている/関わりたい方
  - プログラムの全日程に参加でき、WSの日程以外でも、事前課題のために週平均1-2時間の作業が確保できる方
- 参加者:最大10名程度  
※所属機関のバランス等を考慮し、事務局による選考を行います。  
応募いただいた方全員が参加できる訳ではありませんので、ご了承ください。※

## 【申込方法】

- 以下のURLもしくはQRコードから参加申込ください。
- 申込締切:9/20(金)23:59まで
- 申込フォーム:<https://forms.office.com/r/2mNwxjxSQH>
- ※参加申込にあたって事務局に質問や相談がある方は、リディラバ 廣島・清水 (info.bd@ridilover.jp) までご連絡ください。

青森の地域課題構造化ワークショップ  
参加申込フォーム



# 【テーマ】資源循環～食品ロスから青森の課題構造を紐解く～

## Day2: トップランナーヒアリング

### 資源循環

世界的に資源循環型の社会が求められている中、青森県の基幹産業である「食」の領域において、どのように持続可能な仕組みを構築できるかを考える。

気候変動問題の深刻化等が背景となり、廃棄物の再利用やリサイクルを通じて持続可能な社会を目指す資源循環のあり方への注目は、近年ますます高まっている。

一方で、日本では毎年約612万トンの食品が廃棄されており、この「食品ロス」という社会課題は、地球環境だけでなく、食糧自給率低下・ゴミ処理に係る税負担増など「食」を取り巻く多様な社会課題と密接に関わっている。

また生産・加工・小売・消費から再利用/処分に至る一連を構造的に把握しなければ課題全容を把握しづらく、ステークホルダーの利害も絡み合い、分析・対応し難い現状がある。

本WS2日目に実施するトップランナーヒアリングでは、食品ロスを豚の高品質飼料として再利用する難度の高い技術を開発・運用し、食品再利用から豚のブランド化に至るサプライチェーンのリモデルを手掛ける日本フードエコロジーセンターの高橋氏を招き、食品ロスがなぜ生じてしまうのか、なかなか解決されない理由に迫る。



### トップランナー:

#### 株式会社日本フードエコロジーセンター 代表取締役 高橋 巧一 氏

地球環境の持続可能性を脅かす社会課題の解決を志し、日本大学獣医学科卒・獣医師免許取得。

その後、環境ベンチャー等を経て、2005年に小田急グループの事業として小田急フードエコロジーセンターを開設(2013年より株)日本フードエコロジーセンター[J.FEC]。現在まで、事業系食品ロスを回収して家畜の飼料を製造する先進的な食品リサイクル事業に取り組み、工場には連日国内外から多数のメディア・企業・行政が視察に訪れる。

2018年、内閣府主催・第2回ジャパンSDGsアワードで最高表彰(内閣総理大臣表彰)を受賞。農水省の各検討委員を歴任し、2018年全国食品リサイクル連合会の会長就任。2021年、さがみはらバイオガスパワー(株)を設立し、J.FEC隣にバイオガス工場を開設。20年来の技術ノウハウや食品産業との強力なネットワークを活用した再エネ事業に取り組む。同社は環境省・脱炭素ファンドから約1億円の出資を受ける。

## 【プログラム実施日程】 ※開催時間は前後する可能性があります

行程	開催日程	実施内容
事前学習期間	プログラム開始までの間 ～10/20(日)	リディラバ「構造化」ノウハウの学習、テーマイシューに関する事前リサーチ、0次仮説構築
Day1	10/21(月) 13:00-19:00 頃 @青森市内会議室	<テーマへの理解> 構造化のノウハウを学び理解する
Day2	11/6(水) 13:00-19:00 頃 @オンライン	<仮説を立てる> 業界のトップランナーへのヒアリング
Day3	11/25(月) 9:30-17:30 頃 @現地(弘前市内)	<現場に行く> 青森地域の事業者へのヒアリング
Day4	12/20(金) 13:00-19:00 頃 @オンライン	<解決策を検討する> 構造化マップを手掛かりにビジネスモデルを検討
発表会	1/16(木) 13:00-17:00 頃 @青森市内	<事業アイデアをブラッシュアップする> WSで磨いたビジネスアイデアを発表し、事業の担い手となる参加者とブラッシュアップを実施

## 【Day3】現地ヒアリング先

### 資源循環

(仮) 青森県の基幹産業である「食」の領域において、青森県という地域特性を考えながらどのように持続可能な仕組みを構築できるかを、現場ヒアリングを通じて探る。

リンゴの生産量で全国の6割以上を占める青森県。

その豊富な収穫量が地域の経済を支える一方で、リンゴの搾りかすという大量の副産物が生じる。この搾りかすの処理は長年にわたって課題とされてきたが、近年では気候変動や資源循環の必要性が高まる中で、これを活用した新たな取り組みが注目されている。

この地域特有の課題を解決するために、リンゴの搾りかすを低温・低コストで乾燥させ、その後、バイオプラスチック製品や飼料として再利用する技術が開発された。このプロセスは、廃棄物を減少させるだけでなく、地域の農業における新たなサイクルを生み出し、同時に環境保全にも貢献し、新たなビジネスチャンスを創出している。

資源循環という切り口から農業に新たなサイクルをもたらし、持続可能な経済モデルを構築している、JAアオレンに現場視察とヒアリングを実施。食品廃棄物の再利用を通じた地域社会の課題解決に向けた実践的なアプローチを理解することで、ほかの課題における資源循環というループを考えるための情報を持ち帰ることを目的として実施する。



### ヒアリング先:

青森県農村工業農業協同組合連合会 (JAアオレン) 代表理事会長 小笠原康彦 氏



レドックスマスター乾燥機



新技術乾燥プロセス



## 【Day3】現地ヒアリング（実施概要）

現地ヒアリングでは、地域の事業者/プレイヤーが実際に活動している現場へ直接訪問し、話を聞く等のコミュニケーションを大切にしつつ、必要に応じて地域の事業者/プレイヤーを巻き込んだ議論の場を設定します。

課題の本質を特定し、事業化のインサイトを引き出すヒアリングスキルは、スタートアップに伴走し、ともに事業化を目指す支援機関にとって必須のスキルです。

また、ヒアリング後は、会議室などに移動しヒアリングを振り返り、自分たちのヒアリングの良かった点や改善点、現場の事業者と対話した所感等をグループ内で共有。グループ内での共有にはファシリテーター（リディラバメンバー）も参加し、リディラバの目線から、ヒアリングに同席する中で感じた良かった点や、より改善できる点等についてフィードバックを行います。

このヒアリング結果やトップランナーからのインプット、デスクリサーチ結果をもとに、青森県の資源循環における課題構造を可視化していきます。



後

### 振り返るポイント

- (1)適切な**仮説検証**を行い、**具体的なインサイト**を獲得できているか
  - どんな具体のエピソードを獲得できたか
  - 得た情報を仮説に当てた時にどんなことが考えらるか
- (2)自分なりの懐への入り方で、**相手と適切な対話**ができていたか
  - 信頼関係を築く導入
  - 事実を聞く質問
  - 相手が気持ちよく話せるような対話
  - 「なぜ」「どのように」
  - 今後の関係性につながるクロージング



# Appendix

株式会社Ridilover紹介

# 株式会社Ridilover 会社概要

社名	株式会社Ridilover (株式会社リディラバ)
ミッション	『社会の無関心の打破』
創業/拠点	2009年[法人化:2013年] / 東京・本郷
資格	東京都知事登録旅行業 第2 - 6 6 9 8 号 (社) 全国旅行業協会正会員
代表 プロフィール	<p><b>代表取締役 安部 敏樹(あべ としき)</b></p> <p>1987年生まれ。東京大学大学院博士課程在籍。大学在学中の2009年に社会問題をツアーにして発信・共有するプラットフォーム『リディラバ』を設立。2012年度より東京大学教養学部にて、社会起業の授業を教える。特技はマグロを素手で取ること。</p> <p>第1回 総務省「NICT起業家甲子園」優勝、「KDDI∞Labo (ムゲンラボ)」第4期 最優秀賞 など、受賞多数。2017年、米誌「Forbes (フォーブス)」が選ぶアジアを代表するU-30選出。</p> <p>著書『いつかリーダーになる君たちへ』(日経BP社)、『日本につけるクスリ』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)。</p>



# 株式会社Ridilover 事業概要

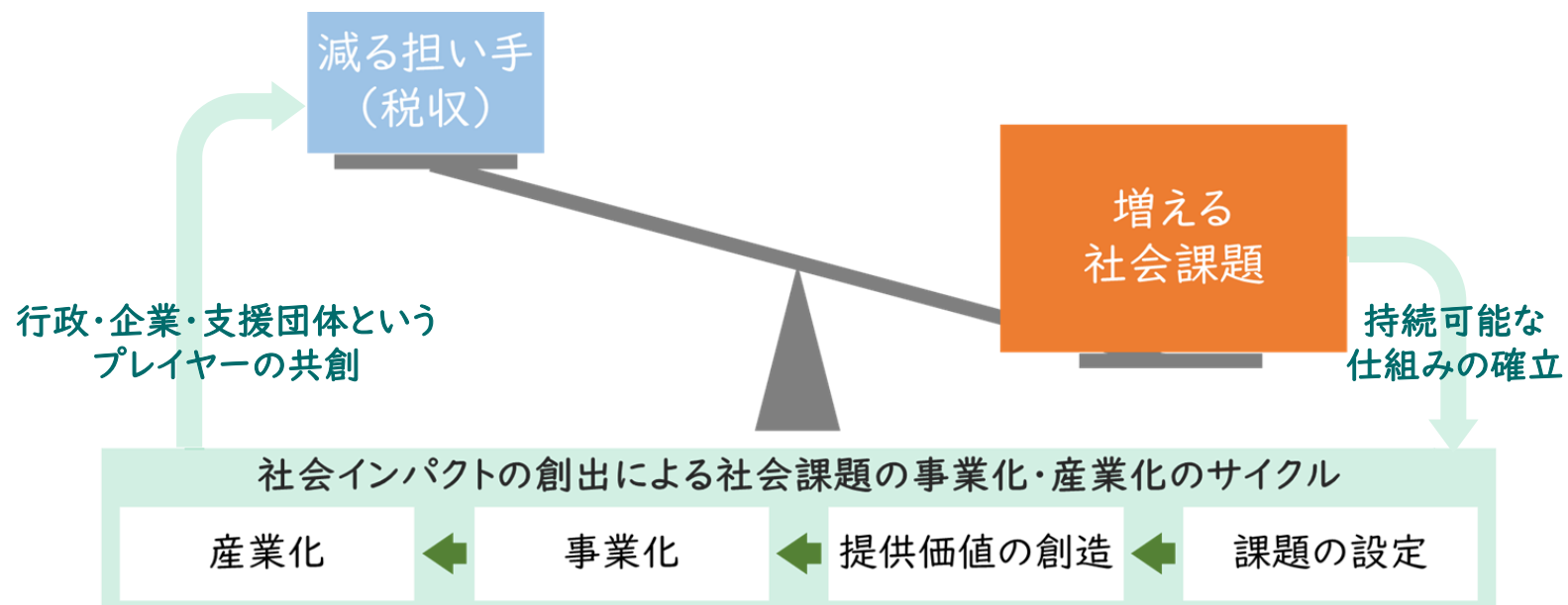
私たちリディラバは、設立から14年間、  
誰かの困りごとから「問題の発見」を行う事業、問題を「社会化」する事業、  
社会問題をみんなで解決すべき社会課題として「資源の投入」をする事業に取り組み、  
社会課題の早期解決にチャレンジしています。



## 株式会社Ridilover 事業概要

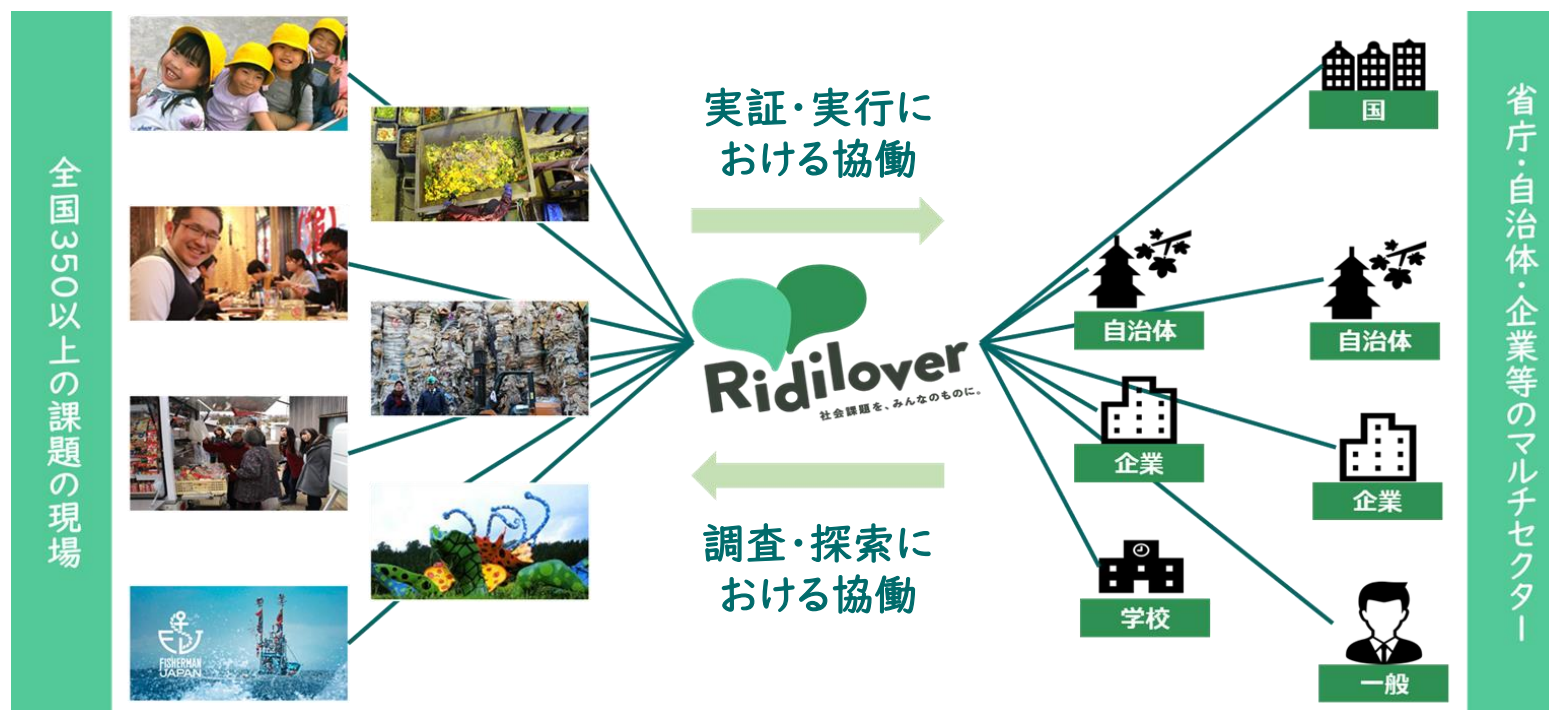
人口増加・高度な経済成長が進む社会においては、行政や自治体が中心となって、社会課題の解決に取り組んできました。しかし、「超高齢化社会」「人口減」といった、時代に突入した現在の日本においては、社会構造の変化に合わせて、社会課題解決の担い手も変化が求められています。

リディラバは課題解決を産業化し、「官公庁」や「自治体」、「企業」、「NPO/NGO」をはじめとした多くのプレイヤーが社会課題への対応に参画することで、今後の課題解決に向けた持続可能な仕組みが創れないかと考えています。



# 株式会社Ridilover 事業概要

団体発足からこれまで、350以上のテーマを調査、500以上の調査記事公開、10,000人以上への課題現場訪問型の研修を実施してきました。現場NPO/当事者/支援者/自治体職員など、**現場の最前線**で活動されている方々とのネットワークと、複雑化する課題を「現場」起点で分析するリディラバ独自の「構造化」という調査方法を用いながら、省庁・自治体・企業等の**マルチセクター**と、社会課題の解決に向けた**持続可能な事業創出**に取り組んでいます。



# 株式会社Ridilover 事業実績

Ridiloverの中でも、とりわけ**官庁や企業、自治体に向けた事業**の  
主要実績は以下の通りになります。

## 官庁

- ・経済産業省:就職氷河期世代(ロスジェネ問題)調査事業
- ・厚生労働省:「重層的支援体制整備事業」調査事業
- ・経済産業省:「認知症共生社会」サービス実証事業
- ・内閣府:RESAS(地域経済分析システム)関連事業
- ・厚生労働省:「ひきこもり」普及啓発事業(博報堂社との共同提案)
- ・文部科学省:「教職員向けリカレント教育」広報事業

## 企業

※CSR除く

- ・トヨタ自動車株式会社:新事業提案制度 事務局サポート
- ・大手精密機器メーカー:新事業提案制度 事務局サポート
- ・大手自動車メーカー:新事業企画 事業伴走
- ・三菱地所株式会社:新規事業企画
- ・セイノーホールディングス株式会社:新事業企画 事業伴走
- ・大手教育関係企業:新学校設立プロジェクト、大手通信企業、etc..

## 自治体

- ・長野県信濃町 官民連携実証事業
- ・茨城県つくば市 つくばSDGs Try事業
- ・新潟県十日町市「大地の芸術祭関連事業」

## 自社事業

- ・NPO向けファンドレイジングサポート事業  
(SIIF事業採択:3,000万円)